市民の

クラブ訪問(55)

チャンバラ最高

中台小学校 スポーツチャンバラクラブ

僕たちは、中台小学校のスポーツチャンバラを楽しむ4年生から6年生、全員男子の13人です。学校のクラブ活動の時間は、水曜日の6時間目。プレイルームを会場に活動しています。クラブの顧問は山本先生と松元先生。二人とも女性なので、チャンバラに夢中な僕たちを「男の子ってこういうことが本当に好きね」と、半分あきれながらも、行き過ぎないように見守ってくれています。

スポーツチャンバラってなにかというと、昔の遊び「ちゃんばら」がスポーツになったもので、エアーソフト剣を手に、自由に打ち合うものです。歴史は30年もあり、世界大会もあります。公式ルールでは、体のどこを打ってもいいのですが、中台小では、面・こて・胴を決まり手にしています。

6年生を中心に、交代で審判もします。最初は、個人戦のトーナメントから開始です。勝ったときは、うれしいし、負けるとすごく悔しいです。次は必ず勝とうと、いろいろと作戦を考えます。二刀流で勝負する人もいます。個人トーナメントの後は、団体戦。その次は2対2の対戦をします。思いっきり剣を振り回すと、とても気持ちがすっきりします。剣も柔らかいし、防具も着けるので安心して打ち合えます。

クラブの時間はいつもあっという間に過ぎてしまい、次のクラブがとても待ち遠しいです。学年を超えて夢中になれるすばらしいスポーツなので、ほかの学校でもやってみたらどうでしょう。学校対抗戦なんてできたら楽しいと思いますよ。

スポーツチャンバラに夢中です

決まった

今日の優勝者

なかまと一緒(55)

美しい字に魅せられて

ペンの会(ペン習字)

わたしたちは、第1・3水曜日に公津公民館で、芦村玉葉先生の指導を受けながらペン習字を習っています。

ペン習字といってもフェルトペン、ボールペン、筆ペンなど使う筆はいろいろで、ペンの会ではつけペンを中心に行っています。硬いペン先は意外と弾力があり、筆圧を自由に変えられますが、技術の習得には時間と根気が必要です。

お手本を見ながら作品が書きあがると、先生がマンツーマンで一字一字添削指導。とても厳しく赤字だらけになりますが、分かりやすく丁寧に教えてもらえます。今ではすっかり先生の美しい字に魅せられてしまい、少しでも近づきたいと思っています。お互いの作品を見せ合い良い作品を見ることも上達への近道です。

ペン一本でくせのない美しい字を習得すれば、日常生活に必要な手紙・はがき、人前での記帳など活用する機会はたくさんあります。文字を書くことは字を忘れない利点があります。パソコンで何でも書ける時代だからこそ、手書きの良さと人の温もりが伝わるペン字を書き続けたいと思います。

男性会員も頑張っています

ペン先に全神経を集中させて

手書きの良さと温かさが魅力です

都電の上にムーミンが

鷲頭香奈子さん（江井須）

わたしのふるさとは東京都北区王子です。ＪＲ王子駅に隣接する飛鳥山公園は、都内でも桜の名所として有名です。広大な敷地には、博物館と噴水や小川の流れるエリア、そして大きなお城の滑り台やＳＬなどのある子ども向けの公園などがあり、家族や友達とよく遊びに行きました。幼少の思い出がたくさん詰まった飛鳥山には、今でも春になると、あの満開の桜を見に行かなくては…という気持ちにさせられます。

わたしの実家のすぐ近くには都電が走っています。一両編成のとてもかわいらしい路面電車です。わたしが小さいころは、夏の夜になると『花電車』といってライトアップされたお祭り仕様の都電が走りました。その電車は一般客を乗せるような造りではなく、車両の上の飾り舞台ではムーミンが手を振っていました。目の前を行く『花電車』に、わたしたちは大興奮。と同時にこれでまた来年まで見ることができないのか、と子ども心に寂しく思った記憶があります。いつからか、その『花電車』自体もなくなり、本当の思い出となってしまいました。それでも、都電の走るゆったりとした下町の風情は、今も変わらず生きているように思います。

こちらに来てまだ5年ほどですが、4才の息子にとっては成田がふるさとです。わたしが王子を大切に思うように、子どもも成田を誇りに思ってくれたらうれしいですね。

実家の近くを走る都電

ふるさとトーク（124） 東京都北区 王子

ひろば 91

スクスクのびのび 314

千葉悠哉くん（5歳）中台
春奈ちゃん（2歳）

がんばっていることは折り紙で手裏剣を作ることと側転。幼稚園ではマジレンジャーごっこをしたり、ブロックでロボットを作ったりして遊ぶんだ。ウルトラマン大好き！大きくなったらウルトラマンになりたいな。恐竜も好き。いつか本物の恐竜を見てみたいな。

こんにちは赤ちゃん 110

鵜澤美寿希（みずき）ちゃん（西三里塚）

鵜澤優希深（ゆきみ）ちゃん（西三里塚）

小林洋子さん（玉造）
ラブ（メス）

生まれたばかりで捨てられていたところを娘が拾ってきました。当時は体が弱く、獣医さんにも「育てるのは難しい」と言われたほど。早いものであれから14年、今では病気もせず元気いっぱいです。愛情をもって育ててきてよかったなと思っています。